看護職者の燃えつき現象に対する職業要因および個人属性の影響

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東口, 和代, 森河, 裕子, 由田, 克士, 相良, 多喜子, 西条, 旨子, 三浦, 克之, 田畑, 正司, 中川, 秀昭 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/37608

原　著

看護職者の燃えつき現象に対する職業要因および個人属性の影響

東口 和代[1,2]，森河 裕子[2]，由田 克士[2]，相良 多喜子[2]，
西条 旨子[2]，三浦 克之[2]，田畑 正司[2]，中川 秀昭[2]

[1]金沢医科大学病院看護部　[2]金沢医科大学公衆衛生学教室

The Influences of Occupational and Individual Factors on Burnout Phenomenon among Nurses

Kazuyo HIGASHIGUCHI[1,2], Yuko MORIKAWA[2], Katsushi YOSHITA[2], Takiko SAGARA[2], Muneko NISHIJO[2], Katsuyuki MIURA[2], Masaji TABATA[2] and Hideaki NAKAGAWA[2]

[1]Department of Nursing, Kanazawa Medical University Hospital
[2]Department of Public Helath, Kanazawa Medical University

This study investigated the influences of occupational factors and individual parameters on burnout phenomenon among nurses. Burnout was measured by the Japanese version of the Maslach Burnout Inventory. The Japanese MBI consists of three subscales : Physical Exhaustion (PE), Emotional Exhaustion / Depersonalization (EE+DP), and Personal Accomplishment (PA). The data was obtained from 835 female nurses working at three hospitals. The Results were as follows : 1) There is a significant correlation between the three subscales on the Japanese MBI and years of nursing experience. 2) There is a significant correlation between both PE and EE+DP and work schedule as well as job rank. 3) There is a significant correlation between the three subscales of MBI and marital status. 4) There is a significant correlation between PA and number of children. 5) There is a significant correlation between PE and age of children. These findings are discussed.

Key words : Burnout phenomenon, Nurses, Occupational factors, Individual parameters, The Japanese version of MBI(Maslach Burnout Inventory)

I．緒　　言

著者らは，臨床看護職者の燃えつき現象に寄与する要因の検討を行っており[1)3)]，先行研究においては職業要因や個人属性との関連を検討した[2)]。しかし，その際に抽出したサンプルは2つの公立総合病院からのものであったこと，解析に使用したサンプル数が約300と若干少ないものであったことから，得られた結果を一般化するには限界があると思われた。

本研究の目的は，サンプルを拡大し，臨床看護職者の燃えつき現象に対する職業要因および個人属性の影響を再検討することである。

II．対象および方法

1．対　象

石川県内の3つの病院（A病院，N病院，K病院）に勤務する看護職者全員を対象として行った自己記入式質問紙調査から得られたデータを使用した。調査は質問紙を各勤務場所に配布し，後日回収する留置法にて実施されている。A病院は公益法人の総合病院，N病院は公立の総合病院，K病院は私立の大学病院である。このうち，N病院は先行研究[2)]で調査対象とした病院の1つである。回収率は各病院ともに90%以上であり，それぞれ210票（有効回答率80.2%），177票（有効回答率90.3%），448票（有効回答率84.7%），合計835票（平均有効回答率84.6%）の有効回答を得ている。対象者の中には4名の男子がいたが，今回の解析では除外した。

表1に調査対象者の職業要因および個人属性を示した。平均年齢はA病院が31.1歳（標準偏差：SD=8.8），N病院が37.0歳（SD=8.9），K病院が29.3歳（SD=8.1）で，全体の平均年齢は31.4歳（SD=9.0）である。平均経験年数はA病院が8.1年（SD=7.8），N病院が15.7年（SD=8.9），K病院が8.1年（SD=6.9）で，全体の平均経験年数は9.7年（SD=8.2）である。

表1　調査対象者の職業要因および個人属性

	Total	A病院	N病院	K病院
経験年数	835名	210名	177名	448名
3年以下	236(28.3%)	85(40.5%)	17(9.6%)	134(29.9%)
4－9	263(31.5)	56(26.6)	34(19.2)	173(38.6)
10－19	207(24.8)	43(20.5)	62(35.0)	102(22.8)
20年以上	129(15.4)	26(12.4)	64(36.2)	39(8.7)
勤務形態	835	210	177	448
3交代制	619(74.1)	139(66.2)	124(70.1)	356(79.5)
その他	216(25.9)	71(33.8)	53(29.9)	92(20.5)
役　職	835	210	177	448
あ り	83(9.9)	24(11.4)	33(18.6)	26(5.8)
な し	752(90.1)	186(88.6)	144(81.4)	422(94.2)
婚　姻	814	201	170	443
未 婚	460(56.5)	120(59.7)	33(19.4)	307(69.3)
既 婚	354(43.5)	81(40.3)	137(80.6)	136(30.7)
子供の有無	354	81	137	136
な し	68(19.2)	24(29.6)	12(8.8)	32(23.5)
あ り	286(80.8)	57(70.4)	125(91.2)	104(76.5)
子供の年齢	286	57	125	104
12歳以下	180(62.9)	34(59.6)	72(57.6)	74(71.2)
12歳以上	106(37.1)	23(40.4)	53(42.4)	30(28.8)

表2　日本版MBI下位尺度得点（職業要因および個人属性別）

	N	PE Mean±SD	EE+DP Mean±SD	PA Mean±SD
全　体	835	4.08±1.37	1.87±1.18	2.93±1.20
経験年数	835	***	***	*
3年以下	236	4.47±1.17	2.04±1.22	2.91±1.12
4－9	263	4.09±1.32	1.83±1.13	2.78±1.18
10－19	207	3.96±1.45	1.93±1.27	3.05±1.26
20年以上	129	3.51±1.43	1.53±1.00	3.08±1.27
勤務形態	835	***	*	
3交代制	619	4.22±1.30	1.92±1.18	2.90±1.17
その他	216	3.68±1.30	1.72±1.18	3.01±1.30
役　職	835	***	*	
あ り	83	3.44±1.52	1.61±1.30	3.09±1.39
な し	752	4.15±1.33	1.90±1.17	2.91±1.18
婚　姻	814	***	**	***
未 婚	460	4.29±1.28	1.97±1.18	2.78±1.13
既 婚	354	3.83±1.42	1.75±1.17	3.10±1.25
子供の有無	354			*
な し	68	3.81±1.42	1.72±1.14	2.78±1.26
あ り	286	3.83±1.41	1.75±1.18	3.18±1.24
子供の年齢	286	*		
12歳以下	180	3.97±1.43	1.83±1.21	3.13±1.21
12歳以上	106	3.60±1.36	1.62±1.12	3.27±1.28

*: p<.05　**: p<.01　***: p<.001

2．方　法

燃えつき現象の測定には，最も実用性が高いと考えられている[3] the Maslach Burnout Inventory（MBI）[4]が採用されている。邦訳版は著者らが作成した日本版MBI[5]（付録参照）が使用されている。日本版MBIは，22項目の質問に対して「全くない」「1年に数回」～「毎日」という7段階評価で回答を求める自己記入式質問紙である。身体的疲弊感（Physical Exhaustion：PE），情緒的疲弊感と非人間化（Emotional Exhaustion / Depersonalization：EE+DP），個人的達成感（Personal Accomplishment：PA）の3つの下位尺度から構成されている[5][6]。身体的疲弊感は「がっくり疲れる」あるいは「ぐったりする」など，身体が疲れ切っていると感じる心理反応を表現しており，日本の看護職者から独自に抽出された因子である。情緒的疲弊感と非人間化は仕事に対して失望し，人間相手に働くことがストレスとなり，患者に対して思いやりがなく，冷淡になったと感じている，いわゆる燃えつき状態のcore[7]を表現している因子である。個人的達成感は仕事に対する充実感，やりがい，あるいは自信と解釈できる因子である。

これら3つの下位尺度と以下に列挙する職業要因および個人属性との関連を検討した。

1）経験年数：「3年以下」，「4－9年」，「10－19年」，「20年以上」の4群に分類した。

2）勤務形態：3交代制，日勤のみ，2交代制，あるいは当直制の4形態が見られたが，人数の関係で「3交代制」群と「その他」の群の2つに分けた。

3）役職：婦長または主任を「役職あり」群，スタッフを「役職なし」群とした。

4）婚姻：若干名の離婚者または死別者を除き，「未婚」群と「既婚」群の2つとした。

5）子供の有無：さらに「既婚」群を「子供なし」群と「子供あり」群に分けた。

6）子供の年齢：「子供あり」群を子供の年齢により，「12歳以下」群と「12歳以上」群の2群に分けた。

各カテゴリーについては，すべて経験年数の影響が考えられるので，各カテゴリーを経験年数の階級別に分けても解析を行った。

Ⅲ．結　　果

表2に職業要因および個人属性別の日本版MBI下位尺度平均得点を示した。日本版MBIの得点化に関しては，因子分析（主因子法による斜交回転）を行い，因子負荷量.40以上の質問項目の評価得点を加算し，これを項目数で割った値を各下位尺度得点とした。EE+DP得点とPE得点は数値が大きいほど燃えつきの程度が高く，PA得点では逆に数値が小さいほど燃えつきの程度が高いとみなされる。

経験年数：3因子すべてにおいて，各群間の有意差が認められた。PE得点は経験年数「3年以下」群が最も高い値を示し，年数が長くなるにつれて有意に低い値となっていた。EE+DP得点は「3年以下」群が最も高い値を示し，次いで「10－19年」群，「4－9年」群の順に低くなっていたが，これら3群間に有意差は見られなかった。「20年以上」群の得点が最も低く，他の3群より有意に低くなっていた。PA得点は「4－9年」群で最も低く，次いで「3年以下」群，「10－19年」群，「20年以上」群の順に高くなっていた。「10－19年」と「20年以上」群のPA得点は「4－9年」群の得点より有意に高くなっていた。

勤務形態：「3交代制」群は「その他」の群より，PEとEE+DP得点が有意に高くなっていた。PA得点に有意差はなかった。経験年数の階級別で行った解析では，「20年以上」の

「3交代制」群はPEとEE+DP得点が有意に高くなっていた。また，「10−19年」の「3交代制」群もPE得点が有意に高くなっていた（表には示さず）。

役職：「役職あり」群は「役職なし」群より，PEとEE+DP得点が有意に低くなっていた。PA得点では有意差は認められなかった。

婚姻：「既婚」群は「未婚」群より，PEとEE+DP得点が有意に低く，PA得点が有意に高くなっていた。経験年数の階級別で行った解析を見ると，「3年以下」の「既婚」群のPEとEE+DP得点が有意に低くなっていた。また，「10−19年」と「20年以上」の「既婚」群のPA得点が有意に高くなっていた（表には示さず）。

子供の有無：「既婚」群の中では，「子供あり」群は「子供なし」群に比べ，EE+DPやPE得点では有意差は示されなかったが，PA得点は高く有意差が認められた。

子供の年齢：「子供あり」群の間でも，子供の年齢が「12歳以下」群は「12歳以上」群に比べて，PE得点が有意に高くなっていた。EE+DP得点はやや高く，PA得点はやや低い傾向にあったが有意差は見出されなかった。経験年数の階級別で行った解析では，「10−19年」の「12歳以上」群はPA得点が有意に高くなっていた。

Ⅳ．考　　察

経験年数は日本版MBI下位尺度すべてと有意に関連しており，燃えつき現象に大きく寄与する要因と言えた。これまでの研究でも報告されているように[8)~11)]，燃えつき現象は経験不足の看護職者により多く見られ，経験年数が長くなるにつれて低減すると考えられた。

交代制夜勤で働いている看護者は当直制で働いている看護者に比し，燃えつき状態に陥っている者の比率が高い[10)]，あるいは交代制勤務者はそうでない者より情緒的疲弊感と非人間化が高く，個人的達成感が低い[8)]という報告が見られる。先行研究[2)]では勤務形態の違いは身体的疲弊感のみに影響を与えており，燃えつき現象におよぼす影響は小さいと考えられた。しかし，本研究では身体的疲弊感に加え，情緒的疲弊感と非人間化との有意な関連も示され，これまでの研究報告を支持する結果となった。すなわち，3交代勤務者はその他の勤務形態で働く者より，心身ともに疲れており，患者を非人間扱いしやすくなると考えられた。特にこの傾向は3交代勤務を長く続けている看護職者により多く見られた。

役職者はスタッフより，情緒的疲弊感や個人的達成感が低く，非人間化が高いという報告[9)]や，婦長や主任の地位にある者はスタッフよりも情緒的消耗感が低く，個人的達成感が高いという報告[10)]があり，研究により結果が異なっている。先行研究[2)]では役職の有無による有意な差が見出せず，役職の有無が燃えつき現象に影響を与える要因であるかについてさらに検討が必要とされた。本研究では，役職の有無は身体的疲弊感や情緒的疲弊感と非人間化と有意な関連にあり，燃えつき現象に影響を与える要因と言えた。役職者はスタッフに比べると燃えつきに陥りにくいと考えられた。婦長や主任は患者に直接的なケアを提供する機会が少なく，接触が少ないためと思われる。

既婚者は未婚者に比べ，情緒的疲弊感と非人間化が低く，個人的達成感が高いとする報告[9)10)]がある。先行研究[2)]では既婚者と未婚者の間ではどの下位尺度にも有意な差は示されなかったが，本研究では3つの下位尺度すべてに有意な差が認められた。よって，婚姻状況は燃えつき現象に大きく寄与する要因と言え，これまでの報告と同様，既婚者は未婚者より燃えつきに陥りにくいと考えられた。Constableら[13)]は，配偶者からのソーシャル・サポートは燃えつき現象を減じる重要な緩衝要因とはみなされないと報告している。しかし，燃えつきに最も陥りやすい経験年数3年以下の看護職者の中で既婚者の燃えつきが未婚者より明らかに少ないことは，配偶者からのソーシャル・サポートが緩衝要因として有効に作用しているためと推察する。今後，この点についてさらに検討していく必要がある。

これまでに，子供の有無や子供の年齢による要因と燃えつき現象との関連を検討した研究は少ない[2)]。先行研究[2)]では「子供あり」群の経験年数4−9年の階級で個人的達成感が有意に高いという結果を得たが，全体としては有意な関連は示されなかった。本研究では「子供あり」群の個人的達成感は有意に高くなっていた。また，先行研究[2)]では子供の年齢は身体的疲弊感と有意に関連する要因であったが，本研究でも同様であった。婚姻状況のみではなく，子供の有無や年齢が燃えつき現象に影響をおよぼす要因であることがいっそう明らかになった。本研究では，経験年数10年以上，結婚していて，12歳以上の子供がいる看護職者の個人的達成感が非常に高く，燃えつきに陥りにくい集団と考えられた。結婚して子供を育てながら，看護職者として働き続けていることが仕事への自信をもたせ，この傾向は子供が成長し育児から解放されるといっそう強くなり，さらに仕事に対する充実感ややりがいを抱くようになるものと思われる。

本研究で使用したサンプルは総合病院と大学病院，公立と公益法人と私立，異なった医療圏から抽出したものであり，先行研究に比べて日本の看護職者集団をより代表したサンプルと考える。したがって，今回得られた結果はより一般化して考えることができよう。しかし，経験年数が長いグループには燃えつきに陥らなかった者が生き残り，役職者や既婚者も多くなるため，結果として燃えつき現象が少ないとも考えられ，さらに研究を積み重ねていくことが重要である。

Ⅴ．ま　と　め

1．経験年数は日本版MBI下位尺度すべてと有意に関連しており，燃えつき現象に大きく寄与する要因と言えた。燃えつき現象は経験不足の看護職者により多く見られ，経験年数が長くなるにつれて低減すると考えられた。

2．勤務形態や役職の有無も，身体的疲弊感や燃えつき現象のcoreと考えられている情緒的疲弊感と非人間化に影響を与える要因と言えた。3交代勤務者は燃えつきに陥りやすく，特にこの傾向は3交代勤務を長く続けている看護職者により多く見られた。役職者はスタッフに比べると燃えつきに陥りにくいと考えられた。

3．婚姻状況も日本版MBI下位尺度すべてと有意に関連しており，燃えつき現象に大きく寄与する要因と言えた。既婚者

は未婚者より燃えつきに陥りにくいと考えられたが，既婚者の中でも，子供の有無や年齢という要因が影響をおよぼしており，燃えつき現象に違いが認められた。

文　献

1）東口和代，森河裕子，由田克士，相良多喜子，奥村義治，瀬戸俊夫，西条旨子，三浦克之，田畑正司，中川秀昭：病院勤務看護職者の職業性ストレス反応と職場ストレス要因；勤務場所間の比較を中心に．北陸公衛誌，24，55－60（1998）．

2）東口和代，森河裕子，西条旨子，三浦克之，田畑正司，由田克士，相良多喜子，中川秀昭：臨床看護職者のストレスとその要因．産衛誌，40（suppl.），149（1998）．

3）Arthur, N. M.：The assessment of burnout；A review of three inventories useful for research and counseling. J. Counsel.Dev., 69, 186－189 (1990).

4）Maslach, C. and Jackson, S. E.：The measurement of experienced burnout. J.Occup. Behav., 2, 99－113 (1981).

5）東口和代，森河裕子，三浦克之，西条旨子，田畑正司，由田克士，相良多喜子，中川秀昭：日本版ＭＢＩ（Maslach Burnout Inventory）の作成と因子構造の検討．日衛誌，53，447－455（1998）．

6）東口和代，森河裕子，三浦克之，西条旨子，田畑正司，由田克士，相良多喜子，中川秀昭：日本版ＭＢＩ（Maslach Burnout Inventory）の因子構造について．日衛誌，53，360（1998）．

7）Walkey, F. H. and Green, D. E.：An exhaustive examination of the replicable factor structure of the Maslach Burnout Inventory. Educ. Psychol. Meas., 52, 309－323 (1992).

8）Koda, S., Hisashige, A., Ogawa, T., Aoyama, H., Kurumatani, N., Nakagiri, S.：A study of burnout among hospital nurses. J.UOEH., 11, 604－608 (1989).

9）岸玲子，三宅浩次：医師・看護婦など対人サービス職業従事者の「燃えつき症候群」に関する研究(2)；職業要因・生活習慣・身体的自覚症状との関連．日本公衛誌，35（suppl.），423（1988）．

10）久保真人，田尾雅夫：看護婦におけるバーンアウト；ストレスとバーンアウトとの関係．実験社会心理学研究，34，33－43（1994）．

11）久繁哲徳，甲田茂樹，小河孝則，中桐伸五：看護婦の燃えつき症状と健康状態との関連；経験年数別構造分析．産業医学，33，721（1991）．

12）土居健郎監修：燃えつき症候群，第1版，23－95頁，金剛出版，東京，1988．

13）Constable, J. F. and Russell, D. W.：The effect of social support and the work environment upon burnout among nurses. J.Human Stress, 12, 20－26 (1986).

著者への通信先：東口和代，　〒920－0293　石川県河北郡内灘町大学１－１　金沢医科大学公衆衛生学教室

Reprint request to Department of Public Health, Kanazawa Medical University, 1－1 Daigaku, Uchinada-machi, Kahoku-gun, Ishikawa, JAPAN 920－0293 (K.Higashiguchi)